バックナンバーはこちら

ＪＡ全農ちば

営農情報集

2026
11

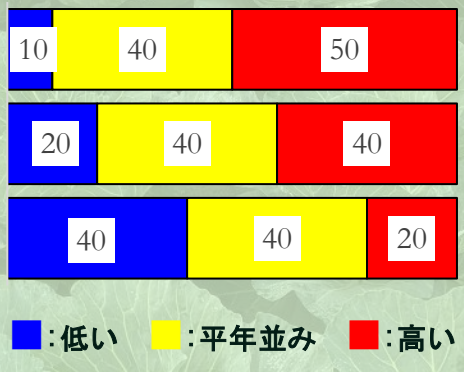
今月の情報

Ⅰ.　園芸野菜　病害虫防除情報

Ⅱ.　安全な農作物生産の取り組みについて
　　～農薬散布時の服装～

今月の気象（気象庁１０/２９発表　１か月予報より）

今月は平年より気温が高く、
降水量は平年並みか多くなる
見込みです。また、日照時間は
平年並みか少ない見込みです。
降雨による圃場の過湿や病害の
発生に注意しましょう。



注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

営農情報

令和８年１１月

Ⅰ. 園芸野菜　病害虫防除情報

ＪＡ全農ちば　営農支援課

１. はじめに

気温が下がり、施設栽培では、保温のために夜間は閉め切る時期になりました。すでに最低気温が 10℃を下回り始めている地域もありますので、温度管理には十分注意しましょう。

今年は過去 10 年と比較して最も灰色かび病の発病・発生が多くなっており、10 月 5 日には千葉県農林総合研究センターより注意喚起がなされています。早めの防除を徹底しましょう。

２. トマト－灰色かび病　**薬剤防除の前に耕種的防除を実施！**

（１）除湿

灰色かび病は 20℃前後の気温と多湿を好みます。夜間、ハウスを閉め切る時期は湿度が高くなりがちです。除湿のための天窓換気、暖房機による早朝加温、送風等を実施しましょう。また、薬剤散布はなるべく午前中に行い、ハウスを閉め切るまでに薬液が乾くようにしましょう。

（２）施設圃場の管理

灰色かび病は、咲き終わった花弁や枯れた葉等に寄生してから健全な部位へと移っていきます。果実に付着した花弁や枯れた葉が残っていると、灰色かび病の発生源となります。同様に、発病した葉や果実を通路に放置せず、必ずハウスの外へ持ち出して処分しましょう。



発生源となる咲き終わった花弁



茎に発生すると被害が大きくなる



残さを通路に放置しない

（３）薬剤防除

●トマト　灰色かび病　防除薬剤

FRAC ｺｰﾄﾞ	薬剤名	希釈倍数 ※１	使用時期	使用回数	備考
M7	ベルクートフロアブル	2000	収穫前日まで	3 回以内	予防
7	カナメフロアブル	4000		4 回以内	予防
9	フルピカフロアブル	2000		4 回以内	予防
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000		3 回以内	予防・治療
12	セイビアーフロアブル 20	1000		3 回以内	予防
52	アイーナ 20 フロアブル	2000		3 回以内	予防・治療
1+10	ゲッター水和剤	1000		5 回以内	予防・治療

※１　登録のうち最大濃度を示しています（1000～2000 倍登録→1000 倍）

※　本資料の無断使用･複写･転載を禁じます　JA全農ちば　営農支援課

3. キャベツ　ー　菌核病・べと病・黒斑病

（１）菌核病

初め下葉の葉柄基部近くに水浸状の病斑が生じ、萎れます。病斑は茎を経て結球部に進展し、結球部の一部または全体が軟腐します。発病した結球葉をはがすと、内部に白色綿状のカビを生じ、のちにネズミの糞のような菌核を形成します。病原菌は菌核の形で条件次第ではありますが、２～３年間土中に入り生存します。春先・秋口の降雨後、キノコ状の子のう盤を生じ、子のう胞子を形成して飛散・伝染します。低温・多湿時に発生しやすいため、近年にこの病気が発生した圃場では気温が下がり始めるこの時期に必ず予防散布を行いましょう。

（２）べと病

はじめ下葉に黄色いぼんやりした病斑があらわれ、しだいに拡大して、葉脈で区切られた多角形になります。病斑の裏側には白色のカビが霜のように発生します。比較的気温が低く降雨が続いた場合、感染が急拡大することがあるため、長い降雨後はすぐに防除を行いましょう。

（３）黒斑病

結球期から収穫期にかけて下葉に発生します。病斑は 2~10mm 程度のくっきりした黒褐色の円形斑点で明瞭な同心斑紋を生じます。肥料切れの時に発生が多くなります。



菌核病　下葉・株元のカビ



べと病



黒斑病

（４）薬剤防除

●キャベツ　菌核病・べと病・黒斑病　防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数 ※１	使用時期	使用回数	備考
菌核病	2	ロブラール水和剤	1000	収穫 7 日前まで	4 回以内	予防・治療△
	7	パレード 20 フロアブル	2000	収穫前日まで	3 回以内	予防・治療△
	11	ファンタジスタ顆粒水和剤	2000	収穫 3 日前まで	3 回以内	予防・治療
	12	セイビアーフロアブル 20	1000	収穫前日まで	3 回以内	予防
	52	アイーナ 20 フロアブル	2000	収穫前日まで	3 回以内	予防・治療
べと病	21	ランマンフロアブル	2000	収穫 3 日前まで	4 回以内	予防
	40+M5	プロポーズ顆粒水和剤	1000	収穫 14 日前まで	2 回以内	予防・治療
	4+M3	リドミルゴールド MZ	1000	収穫 30 日前まで	3 回以内	予防・治療
	21+49	ゾーベックエンテクタ SE	3000	収穫 7 日前まで	2 回以内	予防・治療
黒斑病	7	カンタスドライフロアブル	1500	収穫 7 日前まで	2 回以内	予防・治療△
	7+11	シグナム WDG	1500	収穫 7 日前まで	2 回以内	予防・治療
	11	アミスター20 フロアブル	2000	収穫 7 日前まで	4 回以内	予防・治療

※１　登録のうち最大濃度を示しています（1000～2000 倍登録→1000 倍）

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば　営農支援課

営農情報

令和８年１１月

4. キュウリ － コナジラミ類・アザミウマ類　ウイルス病の蔓延に注意！

（1）コナジラミ類

県内で発生するコナジラミはタバココナジラミとオンシツコナジラミです。特に、タバココナジラミはウリ類の退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV）を媒介します。



タバココナジラミ



オンシツコナジラミ

（2）アザミウマ類

県内で発生するアザミウマはミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマの３種です。特に、ミナミキイロアザミウマはメロン黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を媒介します。



ミカンキイロアザミウマ



ミナミキイロアザミウマ

（3）耕種的・物理的防除

薬剤防除を行う前に発生源となる周辺雑草の除草、施設への防虫ネット（0.4mm が好ましい）の設置が重要な対策になります。また、コナジラミ類は黄色、アザミウマ類は青色の粘着板によって発生予察を行いましょう。

（4）薬剤防除

●キュウリ　コナジラミ類・アザミウマ類　防除薬剤

対象害虫 ※1	IRAC ｺｰﾄﾞ	薬剤名	希釈倍数 ※2	使用時期	使用回数
コ	9B	コルト顆粒水和剤	4000	収穫前日まで	3 回以内
	4C	トランスフォームフロアブル	1000		2 回以内
コ・ミナミ	4A	ベストガード水溶剤	1000		3 回以内
コ・ア	6	アファーム乳剤	2000		2 回以内
		アグリメック	500		2 回以内
	23	モベントフロアブル	2000		3 回以内
	30	グレーシア乳剤	2000		2 回以内
	36	エフィコン SL	1000		2 回以内
	－	ピタイチ	500		－
ア	UN	プレオフロアブル	1000		2 回以内

※1　コ：コナジラミ類、ア：アザミウマ類、ミナミ：ミナミキイロアザミウマ

※2　登録のうち最大濃度を示す（例：1000～2000 倍登録→1000）

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば　営農支援課

営農情報

令和８年１１月

5. ネギ　－　さび病・べと病　**予防的な薬剤散布を実施！**

病害は多湿条件を好むため、降雨前には予防効果、降雨後は治療効果を持つ剤を使用しましょう。また、夜間にもや・霧が発生する日は病害多発の恐れが高いです。天候に留意しながら防除を行いましょう。

（1）さび病

オレンジ色の隆起した斑点が生じます。20℃前後での発生が多くなり、一度発生してからでは防除が困難な病害です。予防主体の防除を行い、病斑が見られたら直ちに治療剤の散布に切り替えましょう。



さび病の病斑

（2）べと病

葉身が黄色くぼやけ、表面にはやがて灰暗色のカビが発生します。さらに進展すると、被害部から葉が折れてしまいます。感染から発病までは非常に速い病害です。降雨前には予防剤を散布し、降雨後も多湿圃場では被害の急拡大に注意しましょう。



べと病の初期病斑

（3）薬剤防除

●ネギ　さび病・べと病　防除薬剤

対象病害	FRAC	薬剤名	希釈倍数 ※2	使用時期	使用回数	備考
さび病	11	ファンタジスタ顆粒水和剤	3000	収穫前日まで	3 回以内	予防・治療
	7	カナメフロアブル	4000	収穫前日まで	4 回以内	予防
	3	オンリーワンフロアブル	1000	収穫 14 日前まで	3 回以内	予防・治療
さび病・べと病	M3	ペンコゼブフロアブル ※1	500~600	収穫 14 日前まで	3 回以内	予防
	M5	ダコニール 1000	1000	収穫 14 日前まで	3 回以内	予防
	11	メジャーフロアブル	2000	収穫前日まで	3 回以内	予防・治療
		アミスター20 フロアブル	2000	収穫 3 日前まで	4 回以内	予防・治療
べと病	21	ランマンフロアブル	2000	収穫 3 日前まで	4 回以内	予防
	40+M5	プロポーズ顆粒水和剤	1000	収穫 14 日前まで	3 回以内	予防・治療
	4+M3	リドミルゴールド MZ ※1	1000	収穫 14 日前まで	3 回以内	予防・治療
	40	レーバスフロアブル	2000	収穫 7 日前まで	2 回以内	予防・治療

※1 ペンコゼブフロアブルとリドミルゴールド MZ は同成分（マンゼブ）を含むため、合わせて３回までなので総使用回数に注意

※2 登録のうち最大濃度を示す（例：1000～2000 倍登録→1000）

※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば　営農支援課

営農情報

令和８年１１月

Ⅱ. 安全な農作物生産の取り組みについて
～農薬散布時の服装～

ＪＡ全農ちば　営農支援課

1. 農薬事故について

全国では毎年数十件、農薬の使用に伴う事故が発生しています。関東農政局の調べによると、令和３年度～令和７年度の５年間における農薬事故 90 件中 15 件(16.6%)が『マスク、メガネ、服装等の装備が不十分』に起因した事故でした。農薬のラベルにも薬剤ごとに注意事項が記載されています。事故を防ぐために、以下の記載内容に従って適切な保護具を着用しましょう。

2. マスクについて　薬剤・用途に応じ選択

農薬を散布する際、散布液の粒子が飛散し、皮膚、鼻、口等から体内に入り込む可能性があります。マスクは数種類あります。農薬の剤型などに従い、適切なマスクを着用しましょう。

（１）**農薬用マスク**・・・国家検定合格の使い捨て式防塵マスク。農薬の粉剤および液剤を散布するときに着用します。農薬用マスクは原則使い捨てです。

（２）**防護マスク**・・・・国家検定合格のフィルタ取替式防塵マスク。急性毒性の高い農薬（粉剤、液剤）を散布するときに着用します。

（３）**吸収缶付防護マスク（土壌くん蒸剤用）**

・・・国家検定合格の有機ガス用の吸収缶のついた防護マスク。クロルピクリン、D-D などのガス化（気化）しやすい農薬の使用時に着用します。吸収缶にも種類がありますので、間違いのないようセットしましょう。

3. 服装について　肌を露出しない、目・鼻・口を守る

農薬使用時は、防除衣や防止、マスク、メガネ、手袋、長靴などの保護具を着用しましょう。



※　本資料の無断使用・複写・転載を禁じます　JA全農ちば　営農支援課